

超過スルコトヲ得ス

罰金ヲ禁錮ニ換フルニハ、檢事ノ請求ニ因リ裁判所長之ヲ命ス但、裁判所長ハ受刑者ノ情狀ニ因リ、檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ其命令ヲ取消スコトヲ得

禁錮限内罰金ヲ納メタルトキハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス

第二十八條

第二十七條 拘留ハ拘留所ニ留置シ其期限ハ一日以上二十五日以下トシ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ定ム

第二十九條

第二十八條 科料ハ十錢以上二十五圓以下トシ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ定ム

第三十條

第二十九條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セザルトキハ第二十六條ノ例ニ照シ拘留ニ換フルコトヲ得

### 第三節 附加刑

第三十條

第三十條 剝奪公權ハ受刑者ニ對シ左ノ結果ヲ生スルモノトス

- 一 政權其他性質若クハ法律ニ因テ日本臣民ノ特有ニ屬スル公權ノ喪失
- 二 官職公職ノ罷免及ヒ將來之ニ就クノ無能力
- 三 勳章及ヒ位記ノ剝奪
- 四 外國ノ勳章ヲ公然佩用スルノ禁止
- 五 兵籍ニ入ルノ無能力
- 六 親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルトキノ外、後見人又ハ保佐人ト爲ルノ無能力

第三十一條

第三十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ當然終身間公權ヲ剝奪セラルルモノトス

第三十三條

第三十二條 禁錮ニ處セラレタル者ハ其刑期間當然第三十條ニ記載シタル公權ノ施行ヲ停止セララルモノトス  
裁判所ハ仍ホ犯罪ノ性質及ヒ情狀ニ因リ刑期滿限後二年ヲ超ヘサル時間公權ノ全部又ハ一分ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條

第三十三條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ其刑期間當然治産ノ禁ヲ受クルモノトス  
死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ亦同シ

第三十四條

監視ハ受刑者ニ對シ左ノ結果ヲ生スルモノトス  
一 警察官廳ハ或場所ニ其居住スルヲ禁スルヲ得ルコト  
二 警察官ハ何時ニテモ其家宅ヲ搜索スルヲ得ルコト  
三 受刑者外國人ナルトキハ日本管外ニ放逐スルヲ得ルコト  
第三十五條 監視ヲ附加スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第三十七條

條、第三十八條、第三十九條

監視ノ期限ハ法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキハ六月以上二年以下トス

第四十條

第三十六條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタルトキハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十三條

第三十七條 左ニ記載シタル物件ハ受刑者ノ所有ニ屬スルトキハ之ヲ沒收ス

- 一 法律ニ於テ成立テ禁制シタル物件
  - 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件但無意ノ輕罪若クハ違警罪ニ付テハ特ニ定メタル場合ニ非サレハ之ヲ沒收セズ
  - 三 犯罪ニ因リ直接ニ得タル物件
- 本條ノ規定ハ法律規則ニ於テ別ニ定メタル他ハ沒收ハ妨ケトナルコトナシ

第四十四條

第三十八條 法律ニ於テ成立テ禁制シタル物件ハ受刑者ノ所有ニ屬セサルトキト雖モ又刑ノ言渡ナキトキト雖モ特ニ宣告シテ之ヲ沒收ス

第四節 刑期計算

第四十九條

第三十九條 刑期ヲ計算スルニ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

刑ノ執行ヲ始メタル日ハ全一日トシテ之ヲ計算ス  
放免ハ刑期滿限ノ翌日午前ニ於テ之ヲ行フ

第五十條

第四十條 刑期ハ刑ノ執行ヲ始メタル日ヨリ起算ス

第四十一條 裁判宣告前ニ受ケタル未決勾留ノ日數ハ左ハ區別ニ從ヒ刑期ニ算入ス

- 一 懲役禁獄ニ付テハ其日數ハ半

第五十一條

二 禁錮拘留ニ付テハ其全日數

第四十二條 裁判宣告後確定前ニ受ケタル未決勾留ハ全日數ヲ刑期ニ算入ス但受刑者又ハ其辯護人若クハ法律上代人上訴シ敗訴シタルトキハ刑期ニ算入セス

第五十二條

第四十三條 受刑者逃走シタルトキハ其逃走日數ヲ刑期ニ算入セス

第五節 假出獄

第五十三條

第四十四條 重罪輕罪ノ繫獄ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アルトキハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期刑ノ四十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第五十五條

第四十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十五條  
第五十六條

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其出獄中治産ノ禁ヲ免ス  
第四十七條 假出獄中更ニ重罪又ハ禁錮ニ該ル有意ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其假出獄ヲ停ムルコトヲ得

第六節 刑ノ消滅

- 第四十八條 主刑及ヒ附加刑ハ執行權ハ左ノ諸件ニ因テ消滅ス
  - 一 刑ノ執行ハ終了
  - 二 受刑者ノ死亡但罰金科料沒收ハ此限ニ在ラス
  - 三 刑事訴訟法ニ從ヒ非常上告又ハ再審ニ因リ處刑宣告ハ取消
  - 四 時效
  - 五 大赦
  - 六 特赦
  - 七 減刑

八 復權

第五十八條

第四十九條 時效ハ受刑者法律ニ定メタル期限中間斷ナク其刑ノ執行ヲ遁レタルトキ之ヲ得ルモノトス

第五十九條

第五十條 時效ヲ得ルノ期限ハ左ノ如シ

- 一 死刑ハ二十五年
- 二 無期懲役及ヒ無期禁獄ハ二十年
- 三 有期懲役及ヒ有期禁獄ハ其宣告セラレタル等級ノ長期ニ等シキ時間
- 四 禁錮罰金ハ五年
- 五 拘留科料ハ一年

第六十一條

第五十一條 死刑ノ時效ハ裁判確定ノ日ヨリ其期限ヲ起算シ其他ノ時效ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ缺席判決ニ係ルトキ

ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十一條

第五十二條 繫獄ノ刑ノ時効ハ受刑者ノ逮捕ニ因テ之ヲ中斷ス  
罰金科料ハ時効ハ受刑者其債務ヲ追認スルニ因リ又ハ差押其他執行ノ手續ヲ爲スニ因テ之ヲ中斷ス

第六十四條

第五十三條 大赦ハ裁判宣告ノ效力ヲ全滅シ當然復權ヲ得セシム

第六十四條

第五十四條 特赦ハ主刑ノ執行ヲ免ス復權及ヒ監視沒收ノ免除ハ赦

狀中特ニ記載スルニ非サレハ之ヲ得セシメス

第五十五條 減刑ハ確定シタル刑ヲ減ス其新ニ科シタル刑ハ裁判ニテ宣告シタルモノト看做ス

第六十三條

第五十六條 復權ハ剝奪公權ヲ消滅セシム

復權ハ主刑ノ終リタルヨリ五年ヲ經過スルノ後之ヲ請願スルコトヲ得

復權ヲ得タル者ハ當然監視ヲ免ス

第三章 加減例

第六十七條

第五十七條 定役ヲ附スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ減輕ス

一 無期懲役

二 一等有期懲役

三 二等有期懲役

四 三等有期懲役

第六十八條

第五十八條 定役ヲ附セサル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ減輕ス

一 無期禁獄

二 一等有期禁獄

三 二等有期禁獄

四 三等有期禁獄

第五十九條 死刑ヲ減輕ス可キトキハ其罪ノ性質、定役ヲ附スル刑ニ該ルト定役ヲ附セサル刑ニ該ルトノ區別ニ從ヒ無期懲役又ハ無期禁獄ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第六十九條

第六十條 三等有期懲役ヲ減輕ス可キトキハ二年以上六年以上ノ有役禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲シ三等有期禁獄ヲ減輕ス可キトキハ二年以上六年以上ノ無役禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第六十七條第六十八條

第六十一條 重罪ノ刑ノ加重ハ第五十七條及ヒ第五十八條ニ記載シタル順序ヲ顛倒シテ之ヲ行フモノトス  
死刑及ヒ無期刑ハ如何ナル場合ニ於テモ加重ニ因リ之ヲ宣告スルコトヲ得ス

第六十六條

一等ノ有期懲役及ヒ有期禁獄ノ刑ヲ加重ス可キトキハ其短期及ヒ長期ニ三年ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條

第六十二條 禁錮罰金ヲ減輕ス可キトキハ其刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キトキハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但禁錮ハ加重ニ因リ七年ヲ超過スルコトヲ得ス  
禁錮罰金ノ加減二等以上ニ及フトキハ其已ニ加減シタルモノニ就テ加減ス

第七十一條

第六十三條 禁錮ヲ減シテ其長期十日以下ニ至ルトキハ其相當日數ノ拘留ニ處ス若シ其短期ノミ十日以下ニ至ルトキハ亦拘留ニ處スルコトヲ得

第七十二條

罰金ヲ減シテ其多數五圓未滿ニ至ルトキハ其相當額ノ科料ニ處ス若シ其寡數ノミ五圓未滿ニ至ルトキハ亦科料ニ處スルコトヲ得  
第六十四條 拘留科料ヲ加減ス可キトキハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス但拘留ハ減シテ一日未滿ニ下

スコトヲ得ス科料ハ減シテ十錢未滿ニ下スコトヲ得ス

第七十三條

第六十五條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サルトキハ之ヲ除棄ス

第九十九條

第六十六條 法律上同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キ理由アルトキハ一等減輕ト一等加重ト相殺ス

第四章 除刑又ハ減刑ノ理由

第七十七條

第六十七條 罪ヲ犯スノ意ナクシテ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論セス但法律ニ於テ其規定ヲ遵守セサルノミヲ罰シ又ハ不注意ヨリ損害ヲ生シタル所爲ヲ罰スル場合ハ此限ニ在ラス

本人相當ノ注意ヲ缺クコトナクシテ刑ヲ加重ス可キ事實ヲ知ラサルトキハ其加重ノ事實ニ該ル可キ刑ヲ受ケサルモノトス

第六十八條

人ハ身體又ハ財産ニ關スル罪ヲ犯シタル者其人又ハ財

第七十五條  
第七十六條

産ニ錯誤アリト雖モ罪ヲ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス

第六十九條

爲不爲ノ自由ヲ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論セス

此規定ハ左ニ記載シタル場合ニ於テ必ス之ヲ適用ス

一 抗拒ス可カラサル脅迫又ハ身體ノ強制ヲ受ケタルトキ

二 天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若ク

ハ親屬ノ身體ヲ救護スルニ出タルトキ

三 自己及ヒ本屬長官ノ職權内ニ在ル事件ニ付キ其長官ノ命令ヲ

執行シ又ハ執行スルモノト相當ニ信シタルトキ

第七十八條

第七十條 知覺精神ノ喪失ニ因リ是非ヲ辨別セスシテ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論セス

第三百四十五條

第七十一條 危急ノ暴行ニ對シ自己又ハ他人ノ身體財産ヲ防衛スル爲メ已ムヲ得スシテ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論セス

其防衛ノ度ヲ超ユルモ暴行ニ因リ激シキ感動ヲ發シ直チニ行ヒタル所爲ハ亦罪トシテ論セス

第三百九

第七十二條 自己又ハ親屬ニ暴行若クハ重大ナル侮辱ヲ受クルニ因リ怒ヲ發シ直チニ加害者ニ害ヲ加ヘタル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百九  
百四十三  
百四十四  
百四十五  
百四十六

第七十三條 前二條ノ規定ハ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行又ハ侮辱ヲ招キタル者ニ之ヲ適用セス但其所爲ノ性質ニ因リ第七十一條ノ場合ニ於テハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ第七十二條ノ場合ニ於テハ一等又ハ二等ヲ減スルコトヲ得

第七十九

第七十四條 十歳ニ滿サル者ノ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論セス但裁判所ハ所爲ノ情狀ニ因リ滿十五歳ニ過キサザル時間懲治場留置ヲ命スルコトヲ得

第八十條

第七十五條 滿十歳以上十五歳ニ滿サル者ノ行ヒタル所爲ハ其是非ヲ辨別シタルト否トヲ判決シ辨別ナクシテ行ヒタルトキハ罪トシテ論セス但裁判所ハ所爲ノ情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサザル時間懲治場留置ヲ命スルコトヲ得

若シ辨別アリテ行ヒタルトキハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス但此場合ニ於テモ裁判所ハ刑期滿限ノ後滿二十歳ニ過キサザル時間懲治場留置ヲ命スルコトヲ得

第八十一

第七十六條 罪ヲ犯ストキ滿十五歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二

第七十七條 生來又ハ幼稚ヨリノ聾啞ニシテ滿十歳以上ノ者ノ行ヒタル所爲ニ付テハ第七十五條ノ規定ヲ適用ス但懲治場留置ノ期限ハ五年ヲ超過スルコトヲ得ス



第七十八條 前數條ニ從ヒ懲治場ニ留置セラレタル者ニ對シテハ裁  
判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ親屬ノ申請アルトキハ檢事ノ意見ヲ  
聽キ其留置ヲ解シコトヲ得

第八十三條

第七十九條 違警罪ニ付テハ滿十五歲以上二十歲ニ滿タサル者ト雖  
モ其罪ヲ宥恕セス

滿十歲以上十五歲ニ滿サル者及ヒ聾啞者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ  
一等又ハ二等ヲ減ス

第八十五條

第八十條 罪ノ徵憑未タ犯人ニ對シ發覺セサルニ先チ官ニ自首シテ  
其處分ヲ待ツ者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

被害者ノ告訴ヲ待テ訴追不可キ罪ニ付テハ犯人其被害者ニ首服シ  
且官ハ處分ヲ待ツテ以テ自首ノ效アリトス  
法律ニ於テ死刑又ハ無期徒刑ヲ科スル重罪ニ付テハ自首ハ爲メ減輕  
法律ニ於テ死刑又ハ無期徒刑ヲ科スル重罪ニ付テハ自首ハ爲メ減輕

ヲ行ハス

第八十九條

第八十一條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯ノ情狀ニ因リ本刑又ハ加  
減シタル刑ノ最低度以下ニ減輕ス可キモノハ酌量シテ仍ホ其刑ヲ  
減輕スルコトヲ得

酌量減輕ス可キモノハ其刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯

第九十四條

第八十二條 確定判決ニ依リ先ニ刑ニ處セラレタル者再ヒ罪ヲ犯ス  
トキハ再犯ト爲ス

再犯ニ因リ刑ヲ加重スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九十五條

第八十三條 初犯再犯共ニ繫獄ノ刑ニ該リ同時ニ之ヲ執行ス可キト  
キハ定役ヲ附スルモノヲ先ニシ定役ヲ附セサルモノヲ後ニス若シ  
二刑共ニ定役ヲ附スルモノナルカ又ハ定役ヲ附セサルモノナルト

キハ先ツ其重キモノヲ執行ス  
第八十四條 監視ハ總テ主刑ヲ執行シ終リタル後ニ之ヲ執行ス  
若シ監視ヲ附加スル刑數箇アルトキハ止タ其期限ノ長キ監視ヲ執  
行ス

第六章 數罪俱發

第百條

第八十五條 未タ確定ノ判決ヲ經サル數罪俱ニ發シタルトキハ各其  
刑ヲ宣告シ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス

第八十六條 死刑ト繫獄ノ刑トヲ宣告シタルトキハ止タ死刑ヲ執行  
ス

第八十七條 數箇ノ刑共ニ定役ヲ附シ又ハ共ニ之ヲ附セサルトキハ  
止タ其期限ノ長キモノヲ執行ス若シ其刑期等シキトキハ止タ其一  
ヲ執行ス

定役ヲ附シタル刑ト定役ヲ附セサル刑トヲ宣告シタル場合ニ於テ  
定役ヲ附シタル刑期長ク又ハ等シキトキハ止タ其刑ヲ執行ス若シ  
其刑期定役ヲ附セサル刑ヨリ短キトキハ先ツ定役ヲ附シタル刑ヲ  
執行シ其期限ヲ定役ヲ附セサル刑ニ通算ス

第八十八條 期限等シキ重罪ノ刑ト禁錮ノ刑トヲ宣告シタル場合ニ  
於テ其共ニ定役ヲ附シ又ハ之ヲ附セサルトキハ止タ重罪ノ刑ヲ執  
行ス  
期限等シキ無役禁錮ト拘留トヲ宣告シタルトキハ止タ禁錮ヲ執行  
ス

第八十九條 重罪ノ刑ト禁錮トヲ宣告シ又ハ禁錮ト拘留トヲ宣告シ  
タル場合ニ於テ前數條ノ規定ニ從ヒ禁錮又ハ拘留ヲ執行スルトキ  
ハ重罪又ハ禁錮ノ刑ハ仍ホ其法律上ノ結果ヲ生ス

第九十條 重罪ノ刑ト罰金若クハ科料トヲ宣告シタルトキハ止テ重罪ノ刑ヲ執行ス

禁錮若クハ拘留ト罰金若クハ科料トヲ宣告シタルトキハ禁錮拘留ヲ執行シ其一日ヲ一圓ニ折算シテ罰金科料ノ額ヨリ控除シ剩ル金額ヲ徴收ス

第九十一條 數箇ノ罰金若クハ科料ヲ宣告シ又ハ罰金ト科料トヲ宣告シタルトキハ止テ其金額ノ多キモノヲ執行ス

第九十二條 附加刑ハ總テ之ヲ執行ス但停止公權及ヒ監視ニ付テハ止テ其期限ノ長キモノヲ執行ス

第九十三條 一罪前ニ發シ已ニ確定ノ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シタルトキハ亦前數條ノ規定ニ從フ但後發罪ニ對スル繫獄ノ刑前發罪ノ刑ヨリ重キトキハ其前後ノ刑定役ヲ附スルト否トヲ分タス已ニ執

第二百二條 第二項

行シタル前發罪ノ刑期ヲ後發罪ノ刑期ニ通算ス

已ニ執行シタル刑又ハ執行中ノ刑消滅シタルニ因リ他ノ刑ヲ執行ス可キ場合ニ於テモ亦前項通算ノ例ニ從フ

第二百二條 第二項

第九十四條 前發罪ヲ判決スルトキ未タ發セサル罪再犯罪ト俱ニ發シ又ハ再犯罪ヨリ後ニ發シタルトキハ再犯罪ノ刑ト後發罪ノ刑ト

ヲ比較シ前數條ノ規定ニ從テ處分シ前發罪ノ刑ハ別ニ之ヲ執行ス若シ前發罪ノ刑後發罪ノ刑共ニ再犯罪ノ刑ヨリ重キトキハ前發罪ノ刑ト後發罪ノ刑トヲ比較シテ處分シ再犯罪ノ刑ハ別ニ之ヲ執行ス

第七章 數人共犯

第二百四條

第九十五條 二人以上共ニ罪ヲ犯シタル者又ハ罪ヲ犯スニ際シ之ニ必要ナル所爲ニ加功シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第百五條

第九十六條 贈與、約束、脅迫、威權其他ノ手段ヲ以テ人ヲ教唆シ、重罪、輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第百九條  
首段

第九十七條 左ニ記載シタル者ハ重罪、輕罪ノ從犯ト爲シ、正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第百十條  
第一項

- 一 正犯ヲシテ其罪ヲ遂ケシムル爲メ誘導、指示シ又ハ犯罪ノ用ニ供シ若クハ犯罪ヲ容易ナラシム可キ器具、方法ヲ授ケ若クハ之ヲ得セシメ其他豫備ノ所爲ニ加功シタル者
  - 二 罪ヲ犯スニ際シ其便利ト爲ル可キ所爲ニ加功シ又ハ當然爲ス可キノ義務ヲ執行セスシテ正犯ヲ幫助シタル者
- 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ルトキハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

第九十八條 犯罪ノ情狀ニ因リ刑ヲ加重ス可キ場合ニ於テハ共犯中

第百六條  
第二項

其事ニ與ラサルモ情ヲ知リタルトキ若クハ豫知シ得ヘキトキハ其加重ヲ免カルルコトヲ得ス

第百七條

共犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キトキハ他ノ共犯ニ及ホスコトヲ得ス

第百八條

第九十九條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キトキハ教唆者及ヒ從犯ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス但罪ヲ犯スニ際シ加功シタル從犯ハ此限ニ在ラス

第百條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル所ト輕重ヲ異ニスル同性質ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト異ナルトキハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

- 一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キトキハ止テ其指定シタル罪ニ從テ

刑ヲ科ス

二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キトキハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第百九條 未遂

第百一條 共謀シテ罪ヲ犯スニ當リ正犯中共謀シタル所ト異ナル罪ヲ犯シタル者アルトキ又ハ正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ノ罪ト異ナルトキハ他ノ正犯又ハ從犯ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 未遂犯

第百十二條

第百二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其實行ニ著手スト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ遂ケサルモノハ未遂犯ト爲ス

第百十三條

第百三條 重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス  
輕罪ノ未遂犯ハ法律ニ於テ特ニ罰スルコトヲ定メタル場合ニ於テ之ヲ罰ス

第百十二條

違警罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰セス

第百四條 未遂犯ノ刑ハ法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキハ已ニ遂ケタルモノノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第百五條 罪ヲ行フハ際犯人自ラ中止シ又ハ其所爲ヲ盡スモ自ラ效果ヲ缺カシメタルトキハ止タ現ニ生シタル害ニ從テ之ヲ罰ス

第九章 名例

第百十四條

第百六條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

- 一 祖父母、父母、夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟、姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟、姊妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟、姊妹及ヒ其配偶者

第一百十五條

- 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹
- 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母、嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父、異母ノ兄弟姉妹同シ
- 養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シ
- 第一百七條 官吏ト稱スルハ巡査、憲兵、卒及ヒ監獄ノ看守ヲ包含ス
- 第一百八條 公吏ト稱スルハ執達吏、公證人及ヒ地方自治制ニ依リ、公共ノ事務ヲ執ル吏員ヲ謂フ

第一編 第九章 名例

- 第一百九條 臨時委任ヲ受ケテ官吏、公吏ノ事務ヲ補助シ、若クハ之ヲ攝行スル者ハ仍ホ官吏、公吏ニ準ス
- 第一百十條 判事、檢事ト稱スルハ行政裁判所ノ長官、評定官、陸海軍軍法會議ノ判士、長判士、理事、主理、其他特別裁判所ニ於テ審判、檢察ノ事務ヲ掌ル者ヲ包含ス
- 警察官ト稱スルハ陸海軍檢察官ヲ包含ス
- 第一百一十條 議會ト稱スルハ法律ヲ以テ組織シタル議會ヲ謂ヒ、議員ト稱スルハ其議會ノ議長、議員ヲ謂フ
- 第一百十二條 家宅ト稱スルハ人ノ住居シ、又ハ人ノ住居ニ供シタル家屋、船舶、其他ノ建造物ヲ謂フ
- 家宅ニ附屬スル庭園、其他ノ場所ニシテ防圍ヲ施シタルモノハ家宅ニ準ス

第三百十三條 門戶、牆壁ト稱スルハ家宅ハ上下四方ヲ限ル人工若クハ天然ハ防圍ヲ謂フ其踰越ト稱スルハ防圍ノ下邊ヨリ潛入スルモノヲ包含ス鎖鑰ヲ開クト稱スルハ偽鑰ヲ用ヒ其他ハ手段ヲ以テ人ハ閉鎖シタル場所ヲ開クヲ謂フ

第三百十四條 兇器ト稱スルハ左ニ記載シタルモノヲ謂フ

一 銃劍刀槍其他ノ兵器

二 菜刀棍棒其他用方ニ因リ人ヲ殺傷スルニ足ル可キ物件

三 人ヲ威嚇スルニ足ル可キ爆發物及ヒ燃燒物

第三百十五條 毆打ト稱スルハ總テ暴行其他人ヲ疾病創傷ニ致スハ意ヲ以テ行ヒタル匪曲ノ所爲ヲ包含ス

第四百十九條

第三百十六條 一日ト稱スルハ二十四時ヲ謂フ

第三百十七條 年齢ヲ計算スルニ一歳ト稱スルハ曆ニ從ヒ生日ヨリ起算シタル一年ヲ謂フ

第一編 公益ニ關スル重罪及ヒ輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第三百十六條

第三百十八條 天皇、三后、皇嗣、皇嗣ノ妃及ヒ攝政ノ生命ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ已遂未遂ヲ分タス死刑ニ處ス

其身體ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ已遂未遂ヲ分タス無期懲役ニ處ス

第三百十八條

第三百十九條 前條ニ記載シタル以外ノ皇族ノ生命ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ若シ未遂犯ニ係ルトキハ無期懲役ニ處ス其身體ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ無期懲役ニ處シ若シ未遂犯ニ係ルトキハ一等有期徒刑ニ處ス

第二編 公益ニ關スル重罪及ヒ輕罪 第一章 皇室ニ對スル罪

第一百十六條

第一百二十條 前二條ニ記載シタル重罪ノ豫備ヲ爲シタル者ハ未遂犯ノ刑ニ一等ヲ減シ其二人以上陰謀ヲ爲シタルニ止マル者ハ二等若シハ三等ヲ減ス。

三八

第一百十七條

第一百二十一條 前條ニ記載シタル豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ一年以上五年以下ハ監視ニ付ス。

第一百二十二條 天皇、皇后、皇嗣、皇嗣ハ妃其他皇族ニ對シ其面前ニ於テ不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ三月以上五年以下ノ有役禁錮若クハ無役禁錮ニ處ス。

第一百十七條

其面前ニ非スト雖モ文書ヲ配付シ演說ヲ爲シ其他公ノ方法ニ因リ不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ二月以上四年以下ノ有役禁錮若クハ無役禁錮ニ處ス。

第一百十七條

第一百二十三條 皇陵及ヒ神宮ニ對シ不敬ハ所爲ヲ行ヒタル者ハ一月

### 第一章 内亂ニ關スル罪

第一百二十四條

第一百二十四條 皇室ヲ傾覆シ皇嗣ノ順序ヲ紊亂シ邦土ヲ僭竊シ其他國憲ヲ變更スルコトヲ目的トスル内亂ニ與シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス。

- 一 首魁及ヒ煽動者ハ死刑ニ處ス。
- 二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期禁錮又ハ一等有期禁錮ニ處ス。
- 三 兵器、彈藥、金穀、船舶其他軍用ノ物品ヲ資給シ又ハ暴動者ノ爲メ有益ナル事務ヲ爲シタル者ハ一等又ハ二等ノ有期禁錮ニ處ス。
- 四 前數號ニ記載シタル以外ノ共犯人ハ三等有期禁錮ニ處シ止タ雜務ニ使役セラレタル者ハ一年以上五年以下ノ無役禁錮ニ處ス。



暴動者ト通謀セスト雖モ暴動者ノ爲メニ有益ナル幫助ヲ爲シタル者ハ一等乃至三等ノ有期禁獄ニ處ス

第二百一十一條

第二百一十一條 政府ヲ傾覆シ政務ヲ變亂シ其他政事ニ關スル事項ヲ目的トスル内亂ニ與シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百一十二條

第二百一十二條 前二條ニ記載シタル内亂ヲ起ス爲メ左ノ所爲ヲ行ヒタルトキハ未タ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ヲ起シタルト同ク論シ同條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

- 一 兵器彈藥金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタルトキ
- 二 陸海軍ノ製造所武庫陣營又ハ政府ニ屬シ若クハ政府ハ使用スル船舶ヲ劫掠シタルトキ

第二百一十七條

第二百一十七條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器彈藥金穀船舶其他軍用ノ物品

第五條第一項

ヲ準備シテ内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十四條第二百二十五條ノ例ニ照シ各二等ヲ減ス

其他ノ方法ヲ以テ豫備ヲ爲シタル者ハ各三等ヲ減ス

第二百二十八條

第二百二十八條 二人以上内亂ノ陰謀ヲ爲シタル者ハ第二百二十四條第二百二十五條ノ例ニ照シ各四等ヲ減ス

第二百二十九條

第二百二十九條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ一年以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百三十條

第二百三十條 第二百二十四條第二百二十五條及ヒ第二百二十六條ニ記載シタル罪ノ實行前人ノ身體又ハ財産ニ對スル通常ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者ハ各本條ノ刑ニ處ス其實行ヲ始メタル後ト雖モ内亂ニ必要ナラサルトキ亦同シ

第七條

第三百一十一條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ一年以上三年以下ノ無役禁錮ニ處ス  
第三百一十二條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第三章 外患ニ關スル罪

第九條

第三百十三條 日本人外國ニ與シテ日本ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中日本ノ同盟國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第十條

第三百十四條 外國ト交戦中敵國ノ兵隊ヲシテ日本若クハ同盟國ノ管内ニ入ルコトヲ得セシメ又ハ日本若クハ同盟國ニ屬シ若クハ其使用スル城邑陣營港口船舶陸海軍ノ製造所又ハ倉庫ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第十條 第三百一十一條

其他攻守ノ爲メニ有益ナル場所物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期懲役又ハ一等有期徒刑ニ處ス

第三百十五條 敵國ヲ利シ又ハ日本若クハ同盟國ヲ害スル爲メ前條ニ記載シタル場所物件ヲ毀壞シ若クハ使用スルコト能ハサルに至ラシメタル者ハ前條ノ例ニ擬シテ處斷ス

第三百十六條 官吏其他ノ者職務ニ因リ又ハ臨時ノ委任ニ因リ日本若クハ同盟國ノ外交商議ニ關スル機密ヲ知リ又ハ陸海軍ノ機密ヲ知テ之ヲ敵國ニ漏泄シタル者ハ無期懲役ニ處ス  
偽計賄賂暴行ヲ以テ前項ニ記載シタル機密ヲ探知シ之ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第三百十七條

第三百十七條 敵國ヲ利シ又ハ日本若クハ同盟國ヲ害スル爲メ日本

第一條第二項

若クハ同盟國ノ陸海軍隊ノ位置運動其他軍備軍情ヲ敵國ニ通知シ又ハ水陸ノ要害險夷ヲ敵國ニ指示シタル者ハ一等有期懲役ニ處ス

第三百三十一條第二項

第三百三十八條 敵國ハ爲メニ間諜ト爲リタル者ハ無期懲役ニ處ス日本若クハ同盟國ノ管内ニ敵國ノ間諜ヲ入ラシメ又ハ之ヲ誘導シ若クハ藏匿シタル者ハ一等有期懲役ニ處ス

第三百三十九條 敵國ヲ利シ又ハ日本若クハ同盟國ヲ害スル爲メ左ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ一等又ハ二等ノ有期懲役ニ處ス

- 一 日本官署又ハ同盟國ヨリ發シタル命令書其他公信ヲ携帶スル者ハ通行ヲ妨ケタル者
- 二 公信ノ用ニ供スル電信器械ヲ破壊シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者
- 三 其命令書又ハ公信ヲ携帶シ若クハ發送受領不可キハ任ヲ受ケ

第三百三十二條

第四百十條 前數條ニ記載シタル罪ハ豫備ヲ爲シタル者ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第四百十一條 自己ノ名ヲ以テスルト他人ノ代理ナルトテ問ハス日本官署若クハ同盟國ヨリ委任ヲ受ケテ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ヲ利シ又ハ日本若クハ同盟國ヲ害スル爲メ其委任條件ニ違背シタルトキハ三等有期懲役ニ處ス

第四百十二條 未タ宣戰ニ至ラスト雖モ敵國ニ對シ戰端ヲ開カントスル際ニ於テ前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ亦各本條ニ依テ處斷ス

第四百十三條 平時ニ於テ政事若クハ軍事ニ關スル機密ヲ外國政府ニ漏泄シタル者ハ其直接ナルト間接ナルトヲ分タス二月以上二年

第三百三十五條

以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ其職務ニ因テ知リタル機密ニ係ルトキハ一等ヲ加フ  
第四百四十四條 外國人日本ニ在テ第三百三十四條以下ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ減ス  
第四百四十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第四章 國際ニ關スル罪

第三百三十三條

第四百四十六條 外國ニ對シ私ニ發シタル遠征軍ニ與シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
一 首魁及ヒ煽動者ハ二等有期禁獄ニ處ス  
二 樞要ノ職務ヲ爲シタル者及ヒ兵器彈藥金穀船舶其他軍用ノ物品ヲ資給シタル者ハ三等有期禁獄ニ處ス

第三百三十三條

三 其他ノ共犯人ハ六月以上三年以下ノ無役禁錮ニ處ス  
第四百四十七條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器彈藥金穀船舶其他軍用ノ物品ヲ準備シテ遠征ノ豫備ヲ爲シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各二等又ハ三等ヲ減ス

第三百三十四條

第四百四十八條 遠征ノ豫備ヲ爲スト雖モ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ一年以上三年以下ノ監視ニ付ス  
第四百四十九條 外國ニ對シ媾和ヲ破リ又ハ其報復ヲ招ク可キ敵對ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ三等有期禁獄ニ處ス  
第四百五十條 外國交戦ノ際日本ニ於テ局外中立ヲ布告シタルトキ其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ無役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百五十一條 日本國ノ賓客タル外國ノ君主皇族大統領又ハ日本國

第二編第五章官ニ抗スル罪第一節官吏公吏議員其職務ヲ行フヲ妨害スル罪 四八  
ニ駐在スル外國使臣ニ對シ侮辱シタル者ハ第五十六條ノ例ニ擬  
シテ處斷ス  
本條ノ罪ハ被害者又ハ其代表者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコ  
トヲ得ス

### 第五章 官ニ抗スル罪

#### 第一節 官吏公吏議員ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三百二十九條 官吏公吏議員其職務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其  
官吏公吏議員ニ抗拒シ若クハ妨害ヲ爲シ又ハ官吏公吏議員ニ迫リ  
強テ其爲ス可カラサル處分ヲ行ハシメントシタル者ハ四月以上四  
年以下ノ無役禁錮若クハ有役禁錮ニ處ス  
若シ三人以上ニテ犯シタルトキ又ハ兇器ヲ携帯シテ犯シタルトキ

ハ一等ヲ加フ

第三百三十條 多衆集合シテ公事ニ關シ官署公署議會ニ對シ暴行脅  
迫ヲ爲シタル者ハ兇器ヲ携帯スルト否トヲ分タス六月以上五年以  
下ノ無役禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
其首魁及ヒ煽動者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏公吏議員ヲ疾病死傷ニ致  
シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス  
其官吏公吏議員ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百五十五條 罪ヲ犯スハ目的ヲ以テ二十人以上公ノ場所ニ集合シ  
官吏公吏ノ命令ヲ受クルモ解散セサル者ハ十一日以上二月以下ノ  
無役禁錮又ハ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第一節 官吏公吏議員ヲ侮辱スル罪

第二編 第五章 第二節 官吏公吏議員ヲ侮辱スル罪 四九

第五百五十六條 官吏、公吏、又ハ議員ニ對シ其職務執行ノ際若クハ其職務ニ關シ其面前ニ於テ侮辱ヲ爲シタル者ハ十一日以上二年以下ノ無役禁錮ニ處ス

其面前ニ非スト雖モ左ノ場所ニ於テ又ハ左ノ方法ニ依リ侮辱ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ無役禁錮ニ處ス

一 公ノ集會又ハ公ノ場所ニ於テ犯シタルトキ

二 公ノ場所ニ非スト雖モ特定ノ人ニ限リ集會又ハ臨席ヲ許シタル場所ニテ數人ノ面前ニ於テ犯シタルトキ

三 文書、圖畫又ハ偶像ヲ配布シ販賣シ又ハ公衆ノ縱覽ニ供シ若クハ數人ニ示シ又ハ雜劇ヲ演シテ犯シタルトキ

第五百五十七條 前條ニ記載シタル場所ニ於テ又ハ方法ニ依リ官吏、公吏、議員ニ對シ其職務上不法ノ所爲アリトシテ指摘シタル者事實ヲ

證明スルコト能ハサルトキハ二月以上三年以下ノ無役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五百五十八條 官署、公署又ハ議會ニ對シ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ  
本條ノ罪ハ其官署、公署又ハ議會ノ許諾アルニ非サレハ訴退スルコトヲ得ス

第三節 官吏、公吏ノ監守ニ係ル文書ヲ竊取、毀壞シ及ヒ封印ヲ破棄スル罪

第五百五十九條 他人ノ利益ヲ害シ又ハ自己若クハ他人ノ不利益ヲ避

クルノ意ヲ以テ官吏、公吏ノ監守ニ係ル身分證書其他ノ人ノ權利ヲ證明スル公ノ文書、帳簿ヲ竊取、毀壞、隱匿シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ三等有期懲役ニ處ス

第百六十條 官吏、公吏ノ監守ニ係ル證據物件若クハ證據書類又ハ前條ニ記載シタル以外ハ公私ハ文書、簿籍ヲ竊取、毀壞、隱匿シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 官吏、公吏ノ法律ニ從ヒ家屋、倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十二條 保管者又ハ監守者自ラ前二條ノ罪ヲ犯シ又ハ其罪ヲ犯ス者アルコトヲ知テ之ヲ制セサルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第百六十三條 前數條ニ記載シタル輕罪ハ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第六章 裁判事務ヲ妨害スル罪 第一節 公務ヲ行フコトヲ拒ム罪

第百七十  
四條第一

第百七十  
四條第二

第百七十  
九條

第百八十  
條

第百七十  
八條

第百六十四條 醫師、化學家其他職業ニ因リ裁判所ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ十一日以上二月以下ノ無役禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一節 偽證ノ罪

第百六十六條 豫審、公判ヲ問ハス刑事ニ付キ證人トシテ事實ヲ供述ス可キコトヲ命セラレタル者宣誓ヲ爲シタル上、不實ノ事ヲ構造シ若クハ眞實ノ事ヲ掩蔽シ其他虛偽ノ方法ヲ以テ被告人ノ利益ト爲ル可キ供述ヲ爲シタルトキハ其訴件ノ結局如何ニ拘ハラズ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第二百一十條

- 一 違警罪事件ニ係ルトキハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮又ハ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 二 輕罪事件ニ係ルトキハ二月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 三 重罪事件ニ係ルトキハ四月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二百一十七條 被告人ノ害ト爲ル可キ偽證ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
- 一 違警罪事件ニ係ルトキハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 二 輕罪事件ニ係ルトキハ六月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百一十一條

- 三 重罪事件ニ係ルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二百一十八條 輕罪事件ノ被告人偽證ノ爲メ前條第二號ニ記載シタル刑ヨリ重キ刑ニ處セラレタルトキハ偽證者ヲ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 重罪事件ノ被告人偽證ノ爲メ前條第三號ニ記載シタル刑ヨリ重キ刑ニ處セラレタルトキハ偽證者ヲ三等有期徒刑ニ處ス
- 第二百一十九條 被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタルトキハ偽證者ヲ無期懲役ニ處ス若シ被告人ヲ死刑ニ陥ルルノ意思アリタルトキハ死刑ニ處ス
- 何レノ場合ニ於テモ被告人死刑ノ執行ヲ受クサルトキハ各一等ヲ減ス

第二百一十二條



第二百一十二條

第七十條 民事、商事又ハ行政ニ關スル訴訟事件ニ付キ偽證ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

五六

第二百一十四條

第七十一條 裁判所ヨリ鑑定又ハ通辯ヲ命セラレタル者虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ擬シテ處斷ス  
第七十二條 裁判所ヨリ事實參考人トシテ供述ス可キコトヲ命セラレタル者虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ前數條ノ刑ニ各一等ヲ減ス

第七十三條 子孫其父母祖父母ノ害ト爲ル可キ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ  
親屬ノ利益ト爲ル可キ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ヲ免ス

第二百一十五條

自己ハ刑事上訴追セララルコトヲ恐レ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者亦同シ

第二百一十六條

第七十四條 賄賂脅迫偽計其他ノ方法ヲ以テ證人鑑定人通事又ハ事實參考人ヲシテ虛偽ノ供述ヲ爲サシメタル者ハ自ラ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者ト同ク論シ前數條ノ例ニ照シテ處斷ス  
第七十五條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ判決前自

首シタルトキハ本刑ヲ免ス  
若シ其事件ノ判決ニ對シ控訴アリタルトキ其控訴ノ判決前自首シタル者亦同シ

第三節 誣告ノ罪

第七十六條 人ヲ罪ニ陷ルルノ意ヲ以テ不實ノ事ヲ告訴告發シタル者ハ誣告ノ罪ト爲シ二月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上

第二百一十五條

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百六十三條  
第三百六十五條  
第三百六十六條

子孫其父母祖父母ニ對シ本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一等ヲ加フ  
第三百七十七條 誣告ヲ爲シタル者被害者ニ對シ未タ訴追ノ始マラザル前ニ於テ其告訴告發ヲ取消シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四節 辯護士瀆職ノ罪

第三百七十八條 辯護士其對手人若クハ對手人ハ辯護士ト通謀シ其他詐欺ノ方法ヲ以テ依頼者ヲ害ス可キ所爲ヲ行ヒ若クハ對手人ヲ曲庇シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百七十九條 刑事ノ辯護人惡意ヲ以テ被告人ヲ害ス可キ所爲ヲ行ヒタル者ハ二月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪事件ノ被告人ニ係ルトキハ一等ヲ加フ

第五節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百二十四條  
第四百二十五條

第四百二十四條 已決未決ノ囚徒獄舎獄具又ハ檻車ヲ毀壞シテ逃走シタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

若シ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第四百四十五條

第四百四十五條 囚徒二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第四百四十六條

第四百四十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタルトキハ一等ヲ加フ

第四百四十七條

第四百四十七條 暴行脅迫ヲ爲シ又ハ獄舎獄具檻車ヲ毀壞シテ囚徒ヲ

劫奪シ又ハ逃走セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ有役禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル情狀アルトキハ一箇毎ニ一等ヲ加フ

一 二人以上ニテ犯シタルトキ

二 兇器ヲ携帶シテ犯シタルトキ

第百五十四條

第百八十四條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ致シタルトキハ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ一等ヲ加フ

第百四十八條

第百八十五條 看守者又ハ護送者囚徒ヲ逃走セシメ又ハ其逃走スルヲ知テ制セサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 拘留禁錮又ハ未決ノ囚徒ニ係ルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ三等有期懲役ニ處ス

若シ獄舎獄具檻車ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ若クハ是等ノ所爲ヲ助ケテ囚徒ヲ逃走セシメタルトキハ各一等ヲ加フ

第百八十六條 看守者又ハ護送者囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ハ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタルトキハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第百八十七條 監視ニ付セラレ或場所ニ居住スルコトヲ禁セラレタル者其禁ヲ犯シタルトキハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス 特別監視ニ付セラレタル者其規則ニ背キタルトキ亦同シ

第百五十一條

第百八十八條 逃走ノ囚徒又ハ追捕中ノ被告人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ其隠避ヲ助ケタル者ハ十一日以上一年以下ノ有役禁

第二百五十二條

錮若クハ無役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十三條

他人ノ罪ヲ免カレシメテトテ圖リ罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽毀棄シ又ハ其性質形狀ヲ變更シタル者ハ十一日以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十三條

前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人又ハ被告人ノ親屬ニ係ルトキハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ヲ免ス

第二百五十四條

此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

### 第七章 官吏、公吏、公吏人民ニ對スル罪

#### 第一節 官吏、公吏、公吏人民ニ對スル罪

第二百五十六條

官吏、公吏、其職權ヲ濫用シ人ヲシテ其義務ヲキコトテ行ハシメ又ハ其權利ノ執行ヲ妨害シタル者ハ十一日以上六月以下ノ無役禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十八條

官吏、公吏、法律ニ定メタル條件若クハ程式ヲ遵守セシメテ人ノ家宅ニ侵入シ又ハ其身體、財産ニ付キ搜索ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ無役禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條

判事、檢事及ヒ司法警察ノ官吏、公吏、法律ニ定メタル條件若クハ程式ヲ遵守セシメテ人ヲ逮捕、監禁セシメ若クハ逮捕、監禁シタル者ハ一月以上一年以下ノ無役禁錮ニ處ス

司獄官吏懈怠ニ因リ出獄セシム可キ時期ヲ經過シテ囚人ヲ出獄セシメサル者亦同シ

第二百七十九條

第九十七條 司法、行政警察ノ官吏、公吏、獄舎又ハ私家ニ不法ノ監禁アルコトヲ知テ之ヲ検査セサル者又ハ検査スト雖モ之ヲ停止セシメス若クハ管轄官吏ニ報告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ無役禁錮ニ處ス

第九十八條

第九十八條 判事、檢事及ヒ司法警察ノ官吏、公吏、勾留ヲ受ク可カラサル人ナルコトヲ知テ之ヲ逮捕、監禁セシメ若クハ逮捕、監禁シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス

司獄官吏解放セラル可キ囚人ヲ故ラニ解放セサル者亦同シ

第二百八十條

第九十九條 司法警察ノ官吏、公吏、司獄官吏及ヒ囚人ノ護送者囚人ニ對シ必需ノ飲食、衣服ヲ屏去シ又ハ暴行ヲ加ヘ若クハ凌虐ノ所遇

第二百八十二條

ヲ爲シタル者ハ三月以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百八十二條

判事、檢事及ヒ司法警察ノ官吏、公吏、被告人ニ對シ強テ自白ヲ爲サシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百八十一條

前二條ノ罪ヲ犯シ囚人又ハ被告人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ毆打、創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條

判事訴訟事件ヲ審理、判決セサルニ因リ監督官ノ督促ヲ受ケ其定メタル期限内ニ正當ノ事由ナクシテ判決ヲ與フルコトヲ拒ミタル者ハ十一日以上三月以下ノ無役禁錮ニ處ス

第二百八十四條

官吏、公吏、議員、仲裁人其職務ニ關シ又ハ其所屬吏員ノ職務ニ關シ賄賂ノ目的ヲ以テ贈與若クハ提供セラレタル金額、物件、約束其他ノ利益ヲ直接、間接ニ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以

上一年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
其直接間接ニ贈賄者ヲ挑唆シテ賄賂ヲ收受聽許シタル者ハ二月以  
上一年六月以下ノ有役禁錮及ヒ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

賄賂ヲ收受聽許シ因テ不正ノ所爲ヲ行ヒ又ハ相當ノ所爲ヲ行ハサ  
ル者ハ各一等又ハ二等ヲ加フ

第二百四條 判事賄賂ヲ收受聽許シテ不正ノ裁判ヲ爲シタル者ハ四  
月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

若シ刑事ノ本案ニ付キ被告人ニ不利益ナル不正ノ裁判ヲ爲シタル  
トキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ四十圓以上四百圓以下ノ  
罰金ニ處ス被告人ノ受ケタル刑此刑ヨリ重キトキハ三等有期懲役

第二百八  
十五條第  
二項

第二百八  
十六條第  
三項

ニ處シ被告人死刑ニ處セラレタルトキハ第六十九條ノ例ニ從之  
第二百五條 賄賂ヲ贈與提供シ因テ官吏公吏議員若クハ仲裁人ヲシ  
テ不正ノ所爲ヲ行ハシメ若クハ相當ノ所爲ヲ行ハシメ又ハ不正  
ノ裁判ヲ爲サシメタル者ハ其官吏公吏議員仲裁人ト同一ノ刑ニ處  
ス

第二百六條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタルモノハ之ヲ沒  
收シ消費シタルモノハ其價ヲ追徵ス

第二百七條 官吏公吏議員仲裁人賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇  
ヒ又ハ怨ヲ挾ミ不正ノ所爲ヲ行ヒ若クハ相當ノ所爲ヲ行ハス又ハ  
不正ノ裁判ヲ爲シタル者ハ第二百三條及ヒ第二百四條ノ例ニ從フ

第二節 官吏公吏財產ニ對スル罪

第二百八條 官吏公吏其職務ニ因リ自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊

第二百八  
十九條

第二百八  
十七條

第二百八  
十八條

取シタル者ハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九條 官吏、公吏、其職務ヲ以テ契約若クハ糶賣ヲ爲シ、又ハ工事若クハ供給ヲ監督シ、其他官有、公有財産ニ關スル事務ヲ行フニ當リ、其事務ニ付キ不正ノ利益ヲ得タル者ハ十一日以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス、其得タル利益ハ第二百六條ノ例ニ從フ

第二百九十條

第二百十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏、公吏自己ヲ利スル爲メ正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十一條

第二百十一條 此節ニ記載シタル罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第八章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第二百八十二條

第二百十二條 内國ニ於テ適法ノ通用ヲ爲ス内外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ使用シタル者ハ一等有期懲役ニ處ス

若シ其量目ヲ減シ又ハ命價ヲ増シテ之ヲ變造シ使用シタル者ハ三等有期懲役ニ處ス

第二百八十三條

第二百十三條 政府ニ於テ發行スル紙幣若クハ紙幣ニ準スル證券又ハ官許ヲ得テ發行スル内外國銀行ノ紙幣若クハ紙幣ニ準スル内外國銀行ノ證券ヲ偽造、變造シテ使用シタル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百八十五條

第二百十四條 内國ニ於テ適法ノ通用ヲ爲ス内外國ノ銅貨若クハ白銅貨ヲ偽造、變造シテ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六百八十一項  
第九百一十條

第二百十五條 前數條ニ記載シタル貨幣證券ヲ偽造、變造シテ之ヲ使用セサル者及ヒ其偽造、變造ニ與セスシテ之ヲ使用シタル者ハ前數條ノ例ニ照シ各二等ヲ減ス

第九百八十條

第二百十六條 偽造、變造ノ貨幣證券ヲ内國ニ輸入シ又ハ之ヲ使用シタル者ハ内國ニ於テ貨幣證券ヲ偽造、變造シ又ハ之ヲ使用シタル者ト同ク論ス

第六百八十六條

第二百十七條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス  
偽造、變造ノ豫備ヲ爲スニ止マリ未タ著手セサル者ハ偽造、變造ノ刑ニ三等ヲ減ス

第九百九十一條

第二百十八條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第九百九十二條

第二百十九條 貨幣證券ヲ偽造、變造シ又ハ輸入シタル者未タ之ヲ使用セサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免シ一年以上三年以下ノ監視ニ付ス

第九百九十三條

第二百二十條 内外國ノ貨幣證券ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ使用シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第二節 御璽、國璽及ヒ官署、公署ノ記號ヲ偽造スル罪

第九百九十四條

第二百二十一條 御璽、國璽又ハ其影蹟ヲ偽造シタル者又ハ其印影アル文書ヲ使用シタル者ハ無期懲役ニ處ス  
御璽、國璽ヲ不正ニ押捺シタル者又ハ其印影アル文書ヲ使用シタル者ハ一等有期徒刑ニ處ス



第六百九十六條

第二百二十二條 法律規則ニ從ヒ船車量衡等ニ押用スル官署公署ノ記號極印ヲ偽造シテ其物品ニ押捺シ又ハ記號極印ノ影蹟ヲ偽造シタル者ハ一年以上四年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六百九十八條

第二百二十三條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙手形用紙郵便切手封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シテ之ヲ販賣シ販賣ニ供シ又ハ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其偽造シテ販賣使用セサル者及ヒ偽造ニ與セスシテ販賣使用シタル者ハ六月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰

第二百條

金ニ處ス  
第二百二十四條 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其偽造變造ニ係ルモノヲ販賣使用シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三節 文書ヲ偽造スル罪

第二百二十六條 他人ヲ害シ又ハ自己若クハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ公私ノ文書帳簿切符ヲ偽造シ又ハ變造シテ公私ノ害ヲ生シ得ヘカラシメタル者ハ二月以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條  
第二百三十四條  
第二百三十九條

第二百二十七條 左ニ記載シタル文書帳簿ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第二百五十五條

- 一 判決書及ヒ裁判上ノ調書、始末書
- 二 身分證書其他ノ權利ヲ證明スル公ノ文書、帳簿
- 三 公債證書及ヒ其利札
- 四 株式會社ノ株券
- 五 爲替手形、約束手形、小切手、船荷證書、倉荷證書其他ノ信用證券

第二百五十四條 官吏、公吏、其職務ヲ以テ作ル可キ文書、帳簿ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百五十三條 官吏、公吏、其職務ヲ以テ第二百二十七條第二號ニ記載シタル文書、帳簿ヲ作ルニ當リ陳述人又ハ出席人トシテ之ニ關係スル者他人ヲ害シ又ハ自己若クハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ詐僞ノ申告ヲ爲シ公私ノ害ヲ生シ得ヘキ記載ヲ爲サシメ若クハ増減、變換ヲ爲サシメタル者ハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條

第二百五十二條、第二百五十一條、第二百五十條

圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 屬籍身分、氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ官署、公署ノ免狀、鑑札、證明書又ハ疾病其他ノ事項ヲ證明スル醫師ノ證明書ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

官吏、公吏、醫師情ヲ知テ免狀、鑑札又ハ證明書ヲ付與シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百三十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ其偽造、變造ニ係ル文書、帳簿、切符ヲ使用シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ

偽造、變造ニ與セスシテ之ヲ使用シタル者ハ偽造、變造シタル者ハ刑ニ同シ

第二百三十二條 此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第九章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 暴動ノ罪

第三百三十七條

第二百三十三條 人ヲ殺傷脅迫シ又ハ公私ノ財産ヲ毀壞奪掠スルノ目的ヲ以テ多衆集合シ暴動ヲ爲シタル者ハ兇器ヲ携帯スルト否トヲ分タズ六月以上五年以下ノ有役禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其首魁及ヒ煽動者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第三百三十八條

第二百三十四條 前條ノ場合ニ於テ殺傷脅迫毀壞又ハ奪掠ノ所爲アリタルトキハ其下手者及ヒ首魁煽動者ハ各本條ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 放火失火ノ罪

第四百二

第二百三十五條 火ヲ放テ家宅ヲ燒燬シタル者ハ其家宅自己ノ所有

第四百五條

ニ屬スルトキト雖モ無期懲役ニ處ス

火ヲ放テ人ヲ乗載シタル氣車ヲ燒燬シタル者亦同シ  
社寺劇場其他公私ノ集會ニ供スル建造物ニシテ現ニ人ノ集會スルトキ及ヒ鑛坑工場其他人ノ住居ニ供セサル建造物ト雖モ犯人放火ノ際人ノ現在スルコトヲ豫知シ得ヘキトキハ家宅シ以テ論ス

第四百三

第二百三十六條 人ノ住居現在セサル他人ノ家屋船舶其他ノ建造物

ニ火ヲ放テ燒燬シタル者ハ一等乃至三等ノ有期徒刑ニ處ス

第四百六

第二百三十七條 他人ノ所有ニ屬スル山林田野又ハ露積シタル竹木

柴草其他ノ物件ニ火ヲ放テ燒燬シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第四百八

第二百三十八條 前數條ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第四百七

第二百三十九條 自己ノ所有ニ屬スル家屋船舶建造物及ヒ第二百三十七條ニ記載シタル物件ニ火ヲ放テ燒燬シタル者ハ其放火ノ爲メ

衆人ノ危難ヲ生シ得ヘキトキハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百四十條

自己ノ所有ニ屬スト雖モ裁判所ヨリ差押ヘラレ又ハ抵當ト爲シ其他他人ノ爲メニ物權ヲ設定シ又ハ火災保險ニ付シタル物件ハ他人ノ所有ニ屬スルモノト同ク論ス

第二百四十一條

一箇ノ物件ニ火ヲ放チ因テ更ニ重刑ニ處ス可キ他ノ物件ニ延燒シ犯人ヲ豫知ス得ヘキトキハ其重キニ從テ處斷ス

第二百四十二條

前數條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス若シ犯人其人ノ現在スルコトヲ知リ又ハ知リ得ヘキ場合ニ於テ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス

第四百九

第二百四十三條

疎虞懈怠ノ爲メ又ハ規則慣習ヲ遵守セサルニ因リ

第四百十

火ヲ失シテ他人ノ財産ニ損害ヲ及ホシタル者ハ十一日以上二月以下ノ無役禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十四條 蒸氣機關又ハ瓦斯其他激發ス可キ物品ヲ破裂セシメテ家屋船舶建造物及ヒ第二百三十七條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ放火失火ノ例ニ擬シテ處斷ス

第三節 決水ノ罪

第二百四十五條

他人ヲ害スルノ意ニ出テ若クハ他人ノ害ト爲ル可キコトヲ知リ人工若クハ天然ノ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シテ溢水ヲ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

因テ家屋建造物山林田野又ハ其他ノ物件ニ損害ヲ加ヘ又ハ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ放火ノ各本條ニ擬シテ處斷ス

第四百一  
條、第十二  
百三十四  
條

第四百十四條

第二編 第九章 第四節 船舶ヲ覆没スル罪 八〇  
第二百四十六條 疎虞懈怠ノ爲メ又ハ規則慣習ヲ遵守セサルニ因リ  
溢水ヲ致シタル者ハ失火ノ例ニ擬シテ處斷ス

第四節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條

第二百四十七條 衝突坐礁其他ノ方法ヲ以テ人ノ住居シ又ハ人ヲ乘  
載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ其船舶自己ノ所有ニ屬スルトキト  
雖モ一等有期徒刑ニ處ス  
船長又ハ運轉手自ラ犯シタルトキハ無期徒刑ニ處ス  
第二百四十八條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑  
ニ處ス

第四百十六條

第二百四十九條 人ノ住居セス且人ヲ乗載セサル他人ノ船舶ヲ覆没  
シタル者ハ二等又ハ三等ノ有期徒刑ニ處ス  
船長又ハ運轉手自ラ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第四百十七條

第二百五十條 船舶ヲ衝突シ他ノ救助ヲ受クルニ非サルハ繼續シテ  
航行スルコトヲ得サルトキ又ハ船舶ヲ坐礁シ自カノミニテ水上ニ  
浮フコトヲ得サルトキハ覆没ト同ク論ス  
自己ノ所有ニ屬スト雖モ裁判所ヨリ差押ヘラレ又ハ抵當ト爲シ其  
他人ノ爲メニ物權ヲ設定シ又ハ海上保險ニ付シタル船舶ハ他人  
ノ所有ニ屬スルモノト同ク論ス

第五節 往來通信ヲ妨害スル罪

第四百十八條

第二百五十一條 惡意ヲ以テ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シ又ハ壅塞シ  
テ往來ノ妨害ヲ生シ得ヘカラシメタル者ハ二月以上二年以下ノ有  
役禁錮ニ處ス

第四百十九條

第二百五十二條 涼車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道又ハ其標識ヲ損壞  
シ其他汽車ノ危難ヲ招ク可キ所爲ヲ行ヒタル者ハ二等有期徒刑ニ

第六十六條

處ス

第二百五十三條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺、浮標、標識ヲ損壞シ  
其他船舶ノ危難ヲ招ク可キ所爲ヲ行ヒタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十七條  
第六十八條  
第六十九條

第二百五十四條 前數條ノ罪ヲ犯シ因テ危難ヲ生シタルトキハ各本  
刑ニ一等ヲ加ヘ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ豫メ謀テ人ヲ殺傷  
スルノ刑ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十五條 故意ニ出ルト雖モ汽車、又ハ船舶ノ往來ヲ妨害スル  
ノ意ナクシテ第二百五十二條、第二百五十三條ニ記載シタル所爲ヲ  
行ヒタル者ハ二月以上、三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上、五十圓以  
下ノ罰金ニ處ス  
因テ危難ヲ生シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加ヘ人ヲ疾病、死傷ニ致シ  
タルトキハ毆打、創傷ハ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

第六十四條  
第六十五條  
第六十六條

第二百五十六條 偽計、暴行、毀壞其他ノ方法ヲ以テ郵便、電信、電話ヲ妨  
害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上、三年以下ノ有役禁錮及ヒ  
五圓以上、五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條

第二百五十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇  
人、職工自ラ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十八條

第二百五十八條 此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

### 第十章 健康ヲ害スル罪

#### 第一節 阿片煙ニ關スル罪

第七十條

第二百五十九條 阿片煙ヲ輸入シ製造シ販賣シ若クハ販賣ニ供シタ  
ル者ハ二等有期徒刑ニ處ス

第七十一條

第二百六十條 阿片煙ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ製造シ販賣シ若ク  
ハ販賣ニ供シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第二百三十九條

第二百六十一條 稅關官吏情ヲ知テ阿片煙若クハ其吸食器具ノ輸入

第二百四十條

ヲ容易ナラシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十一條

第二百六十二條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房室ヲ給與シテ利ヲ圖ル者

第二百四十二條

ハ三等有期徒刑ニ處ス

第二百四十三條

第二百六十三條 阿片煙吸食ノ際又ハ吸食ノ爲メ昏睡スル際發覺セ

第二百四十四條

ラレタル者ハ一年以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百四十五條

阿片煙又ハ吸食ノ器具ヲ賣渡シ贈與シ又ハ貸與シテ他人ハ阿片煙

第二百四十六條

ヲ吸食スルコトヲ容易ナラシメタル者亦同シ

第二百四十七條

第二百六十四條 阿片煙及ヒ吸食ノ器具ヲ所持スルコトヲ發覺セラ

第二百四十八條

レタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百四十九條

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百五十條

第二百六十五條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ若クハ其水質ヲ

第二百四十四條

第二百六十六條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ナルコトヲ知テ之ヲ用ヒ

第二百四十五條

飲料水ヲ汚穢シ又ハ其水質ヲ變セシメタル者ハ一月以上二年以下

第二百四十六條

ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條

第二百六十七條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者

第二百四十八條

ハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十九條

若シ人ヲ死ニ致スハ意アリテ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス

第二百五十條

第三節 健康ヲ害ス可キ飲食物ヲ販賣スル罪

第二百五十一條

第二百六十八條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ混和シタル飲食物ナルコト

第二百五十二條

ヲ知テ之ヲ販賣シ若クハ販賣ニ供シタル者ハ十一日以上二月以下

第二編 第十章 第四節 私ニ醫業ヲ爲ス罪 第十一章 風俗ヲ害スル罪 八六

ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ノ一ニ處ス

其販賣ニ供シタル飲食物ハ之ヲ沒收ス

第二百五十五條

第二百六十九條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

#### 第四節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條

第二百七十條 官許ヲ得スシテ醫業又ハ産婆ノ業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條

第二百七十一條 前條ノ犯人施術ヲ誤リ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタルトキハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

#### 第十一章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條

第二百七十二條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ノ結合ヲ組成シ

第二百五十九條

テ利益ノ分配ヲ圖リタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十三條

公ノ場所ニ於テ賭博ヲ爲シ現行ノ際發覺セラレタル者ハ十一日以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但現場ニテ消費ス可キ飲食物又ハ一時ノ遊戲ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ財物其現場ニ在ルモノハ之ヲ沒收ス

第二百七十四條

官許ヲ得スシテ富講ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

富籤ノ發賣ニ因テ得タル金額ハ之ヲ沒收ス若シ現在セサルトキハ其額ヲ追徵ス



第二百七十五條 官許ヲ得スシテ興行スル富講、富籤ヲ購買シタル者ハ五圓以上五十圓以下ハ罰金ニ處ス

第二百七十六條

惡意ヲ以テ死屍ヲ殘毀シ又ハ消失セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

死屍ヲ保護シ又ハ埋葬ス可キ責任アル者死屍ヲ遺棄シタルトキ亦同シ若シ殘毀シ又ハ消失セシメタルトキハ一等ヲ加フ

第二百七十七條

惡意ヲ以テ墳墓ヲ發掘シ棺槨又ハ死屍ヲ露ハシタル者ハ二月以上一年六月以下ノ有役禁錮ニ處ス

因テ死屍ヲ殘毀シ又ハ之ヲ他所ニ移轉シタル者ハ一等ヲ加フ

第十二章 商業、工業及ヒ農業ノ自由ヲ妨害スル罪

罪

第二百七十八條

物價ノ昂低ヲ生セシメ若クハ妨クル爲メ暴行脅迫

第二百七十九條

暴行脅迫又ハ偽計ヲ以テ糶賣又ハ請負入札ノ自由

第二百八十條

農工商ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ其作業執務ノ條件ヲ變セシムル爲メ通謀シテ他ノ職工若クハ雇主ニ對シ暴行脅迫

第二百八十一條

又ハ偽計ヲ用ヒ農工商ノ業務ヲ妨害シ得ヘカラシメタル者ハ一月

第二百八十二條

以上六月以下ノ有役禁錮ニ處シ其首魁煽動者ハ三月以上一年以下

第三編 私益ニ關スル重罪及ヒ輕罪第一章 身體ニ對スル罪第一節 謀殺、故殺ノ罪 九〇

ノ有役禁錮ニ處ス

第二百七十一條

第二百八十一條 農工商ノ雇主其雇人ノ雇賃ヲ減セシメ又ハ作業、執務ノ條件ヲ變セシムル爲メ通謀シテ他ノ雇主ニ對シ暴行、脅迫又ハ偽計ヲ用ヒ農工商ノ業務ヲ妨害シ得ヘカラシメタル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編 私益ニ關スル重罪及ヒ輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺、故殺ノ罪

第二百七十二條

第二百八十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百七十四條

第二百八十三條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期懲役ニ處ス

第二百七十三條

第二百八十四條 性質、用方又ハ時會ニ因リ人ヲ死ニ致シ得ヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ豫メ謀ルニ非スト雖モ死刑ニ處ス

第二百七十五條

第二百八十五條 支解、折割其他慘刻ノ所爲ヲ施シ人ヲ殺シタル者ハ豫メ謀ルニ非スト雖モ死刑ニ處ス

第二百七十六條

第二百八十六條 重罪、輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ逃走ヲ便ニシ若クハ刑ヲ免カルル爲メ其犯罪ノ當時人ヲ殺シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タズ死刑ニ處ス

第二百七十七條

第二百八十七條 人ヲ殺スノ意ヲ以テ詐稱、誘導シテ危害ニ陷レ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ豫メ謀ルト否トニ從ヒ謀殺、故殺ヲ以テ論ス其危害ニ陷レタルモ死ニ致ササル者ハ未遂犯ヲ以テ論ス

第一節 毆打創傷ノ罪

第三編 第一章 第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條

第二百八十八條 人ヲ毆打シテ其身軀若クハ精神ニ疾病、創傷ヲ生ゼシメ、因テ死ニ致シタル者ハ二等有期徒刑ニ處ス

第三百條

第二百八十九條 人ヲ毆打シテ五官ノ一ヲ失ハシメ、又ハ四肢ノ一若クハ陰陽ノ使用ヲ失ハシメ、其他重大ナル不治ノ疾病、創傷ヲ生ゼシメタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第三百一條

第二百九十條 人ヲ毆打シテ前條ニ記載シタルヨリ輕キ疾病、創傷ヲ生ゼシメタル者ハ三月以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百二條

第二百九十一條 豫メ謀テ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ。罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ、又ハ已ニ犯シテ逃走ヲ便ニシ若クハ刑ヲ免カルル爲メ、其犯罪ノ當時前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ自己ノ爲メ

第三百五條

ニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス亦各一等ヲ加フ

第二百九十二條 二人以上共ニ毆打シテ人ヲ疾病、創傷ニ致シタルトキハ其疾病、創傷ノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス。若シ其輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ重病、重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス

第三百八條

第二百九十三條 詐稱、誘導シテ人ヲ危害ニ陷レ、因テ疾病、死傷ニ致シタル者ハ毆打、創傷ヲ以テ論ス

第三百十一條

### 第三節 殺傷ニ關スル宥恕

第二百九十四條 本夫其妻ノ現ニ姦通スルヲ覺知シ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス。但本夫先ニ其姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 一家ノ耻辱ヲ蔽フカ爲メ、又ハ養育ヲ爲ス能ハサル

コトヲ恐ルル爲メ父母祖父母其初生ノ兒孫ヲ殺シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十

第二百九十六條 前二條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十

第二百九十七條 左ノ場合ニ於テ已ムヲ得サルニ非スシテ人ヲ殺傷シタル者ハ情狀ニ因リ前條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得  
一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タルトキ  
二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タルトキ  
三 故ナク家宅ニ侵入シ若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タルトキ

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條

第二百九十八條 疎虞懈怠ノ爲メ又ハ規則慣習ヲ遵守セサルニ因リ

第三百十八條

人ヲ死ニ致シタル者ハ一月以上六月以下ノ無役禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十九條

疎虞懈怠ノ爲メ又ハ規則慣習ヲ遵守セサルニ因リ  
第二百八十九條ニ記載シタル疾病創傷ヲ生セシメタル者ハ十一日以上二月以下ノ無役禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ第二百九十條ニ記載シタル疾病創傷ヲ生セシメタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條

第三百條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス  
其他自殺ノ幫助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百一十一條

自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ三等  
有期懲役ニ處ス

第三百一十二條 教唆者又ハ幫助者ハ意外ノ絆鎖障礙ニ因リ自殺者自殺  
ヲ遂ケサルトキハ前二條ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第六節 墮胎ノ罪

第三百一十三條  
第三百一十四條  
第三百一十五條

第三百一十三條 婦女ノ承諾ヲ得テ藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ニ依リ墮  
胎セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

承諾シテ墮胎シタル婦女及ヒ自ラ墮胎シタル婦女亦同シ

第三百一十四條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上  
三年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百一十五條

醫師產婆又ハ藥商婦女ヲ墮胎セシメタル者ハ前二條ノ  
刑ニ各一等ヲ加フ

第三百一十六條

婦女ヲ威逼シ其他婦女ノ承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタ  
ル者ハ一年以上四年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百一十七條

懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打シ因テ墮胎ニ至ラシメ  
タル者ハ一年以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意  
ニ出タル者ハ三等有期懲役ニ處ス

第三百一十八條

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ疾病死傷ニ致シタルトキ  
ハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

第三百一十九條 一家ノ耻辱ヲ蔽フ爲メ又ハ生兒ヲ養育スル能ハサルコ  
トヲ恐ルル爲メ婦女若クハ其夫又ハ其父母祖父母墮胎ノ罪ヲ犯シ

タルトキハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百二十條 此節ニ記載シタル輕罪ハ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第七節 幼者、老者又ハ病者ヲ遺棄スル罪

第三百三十一條  
第三百三十二條  
第三百三十三條

第三百一十一條 自ら生活スルコト能ハサル幼者、老者又ハ病者ヲ遺棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス。其幼者、老者、病者ノ保護ヲ爲ス可キ責任アル者之ニ必要ノ保護ヲ與ヘサルトキ亦同シ。

第三百三十八條

第三百十二條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ。

第三百三十九條

第三百十三條 幼者、老者、病者ヲ遺棄シ又ハ必要ノ保護ヲ與ヘス因テ疾病、死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス。若シ死ニ致スノ意アリテ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス。

第三百十四條 幼者ノ父母、祖父母一家ノ耻辱ヲ蔽フ爲メ又ハ養育スルコト能ハサル爲メ幼者ヲ遺棄シタルトキハ其罪ヲ宥恕シテ本刑

ニ二等又ハ三等ヲ減ス。

### 第二章 自由ニ對スル罪

#### 第一節 擅ニ人ヲ制縛、監禁スル罪

第三百十二條

第三百十五條 擅ニ人ヲ制縛シタル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス。

第三百十二條

第三百十六條 擅ニ人ヲ監禁シタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス。

第三百十三條

第三百十七條 擅ニ人ヲ制縛、監禁シテ重キ脅迫ヲ行ヒ又ハ凌虐ノ所

第三百十四條

遇ヲ爲シタル者ハ前二條ノ刑ニ各一等ヲ加フ。

第三百十四條

第三百十八條 前數條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタル者ハ豫謀毆打創傷ノ例ニ擬シ重キニ從テ處斷ス。

第三百二十五條

第三百二十九條 擅ニ人ヲ制縛、監禁シ其制縛、監禁ノ爲メ不慮ノ變災ヲ避クルコト能ハサラシメ因テ疾病、死傷ニ致シタル者ハ毆打、創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス  
制縛、監禁ヲ受ケタル爲メ又ハ凌虐ノ所遇若クハ脅迫ヲ受ケタル爲メ被害者自殺シ又ハ自ら創傷シタルトキ亦同シ

第二節 脅迫ノ罪

第三百二十條

第三百二十條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ家宅ニ放火セント脅迫シタル者ハ二月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其他人ノ身體、財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十一條

第三百二十一條 左ニ記載シタル情狀アル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加

第三百二十二條

一 金額、有價證券、其他證書類ヲ交付セシムルヲ以テ條件ト爲シ脅迫シタルトキ

第三百二十三條

二 兇器ヲ携帶シテ脅迫シタルトキ

第三百二十四條

第三百二十二條 他人ニ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタル者ハ本人ニ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタルト同ク論ス

第三百二十五條

第三百二十三條 脅迫ノ罪ハ脅迫ヲ受ケタル者ノ告訴アルニ非ザレハ訴退スルコトヲ得ス

第三節 幼者ヲ略取、誘拐スル罪

第三百二十四條

第三百二十四條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シタル者ハ

第三百二十五條

二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十六條

第三百二十五條 滿十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シタル者

ハ一年以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ誘拐シタル者ハ六月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十三條

第三百二十六條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ略取誘拐ノ從犯ヲ以テ論ス

第三百四十四條

第三百二十七條 略取誘拐ノ罪ハ被害者又ハ其法律上代人ノ告訴アルニ非サレハ追訴スルコトヲ得ス  
第三百二十八條 此節ニ記載シタル罪ハ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三章 名譽ニ對スル罪

第一節 誹毀ノ罪

第三百五十八條

第三百二十九條 人ヲ害シ若クハ侮辱スルノ意ヲ以テ左ノ場所ニ於

テ又ハ左ノ方法ニ依リ人ノ名譽ヲ害ス可キ事實行爲ヲ摘發シタル者ハ其事實行爲ノ有無ヲ問ハス誹毀ノ罪ト爲シ十一日以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 公ノ集會又ハ公ノ場所ニ於テ犯シタルトキ

二 公ノ場所ニ非スト雖モ特定ノ人ニ限リ集會又ハ臨席ヲ許シタル場所ニテ數人ノ面前ニ於テ犯シタルトキ

三 如何ナル場所ヲ問ハス被害者ト他人トノ面前ニ於テ犯シタルトキ

四 文書圖畫又ハ偶像ヲ配布シ販賣シ又ハ公衆ノ縱覽ニ供シ若クハ數人ニ示シ又ハ雜劇ヲ演シテ犯シタルトキ

第三百三十條 株式會社ノ頭取支配人其他ノ役員ニ對シ職務上不正ノ事アリトシテ指摘シタル者其事實ヲ證明シタルトキハ罪トシテ



第三百六十一條

第三百三十一條 誹毀ノ罪ハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第三百三十二條 官吏、公吏ヲシテ懲戒處分ヲ受クシムルハ意ヲ以テ不實ノ事ヲ構造シ其監督官吏、公吏ニ申告シタル者ハ十一日以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
本條ノ罪ヲ犯シタル者被害者ニ對シ未タ懲戒手續ハ始マラサル前ニ於テ其申告ヲ取消シタルトキハ本刑ヲ免ス

第二節 陰私漏告ノ罪

第三百六十條

第三百三十三條 醫師、藥商、產婆、辯護士、公證人又ハ神職、僧侶其身分職業ノ爲メ人ノ陰私ヲ委託セラレ若クハ知り得テ自己ヲ利シ又ハ人ヲ害スルノ意ヲ以テ其陰私ヲ漏告シタル者ハ十一日以上六月以下

第三百六十二條

ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス、其誹毀ノ條件ヲ具備スルモノハ誹毀ノ刑ニ一等ヲ加フ  
第三百三十四條 前條ノ罪ハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第二節 姦淫、猥褻ノ罪

第三百三十五條

第三百三十五條 暴行、脅迫ヲ以テ滿十二歲以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三等有期懲役ニ處ス  
方略ヲ用ヒテ婦女ヲ睡眠若クハ昏絶セシメ其他精神ヲ喪失セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

十二歲ニ滿サル幼女ヲ強姦シタル者ハ二等有期懲役ニ處ス  
第三百三十六條 睡眠、昏絶其他精神ノ喪失ニ乘シ婦女ヲ姦淫シタル者ハ前條ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第三百四十九條

第三百三十七條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ二年以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百四十六條

第三百三十八條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百四十六條、第三百四十七條

第三百三十九條 滿十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行、脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

十二歳ニ滿サル幼者ニ對シ暴行、脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十條

第三百四十條 前數條ノ罪ハ被害者又ハ其法律上代人ノ告訴アルニ非サレハ訴退スルコトヲ得ス

第三百五十一條

第三百四十一條 前數條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタル者ハ毆打、創傷ノ各本條ニ擬シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第三百五十二條

第三百四十二條 十五歳ニ滿サル者又ハ瘋癲、白癡者ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十三條

第三百四十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

本條ノ罪ハ本夫ノ告訴アルニ非サレハ訴退スルコトヲ得ス但本夫先ニ其姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

### 第四章 父母、祖父母ノ身體、自由、名譽ニ對シ犯シタル罪ノ特例

#### シタル罪ノ特例

第三百六十三條

第三百四十四條 子孫其父母、祖父母ニ對シ前三章ニ記載シタル重罪、輕罪ヲ犯シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第三百六十二條

第三百四十五條 子孫其父母、祖父母ヲ謀殺、故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第三編 第四章 父母、祖父母ノ身體、自由、名譽ニ對シ犯シタル罪ノ特例 一〇七

第五章 住所ニ對スル罪

第三百七十一條

第三百四十六條 故ナク人ノ家宅ニ侵入シ制止ヲ受ケテ退去セザル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス  
左ニ記載シタル情狀アル者ハ制止ヲ受ケタルトキト雖モ仍ホ本刑ニ處ス

- 一 犯人潛伏シタルトキ
- 二 家人又ハ看守人ハ不在中犯シタルトキ

第三百七十一條  
第三百七十二條

第三百四十七條 人ノ家宅ニ侵入シタル者左ノ情狀アルトキハ一月以上六月以下ノ有役禁錮ニ處ス

- 一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタルトキ
- 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物ヲ携帶シテ入りタルトキ

第三百七十三條

- 三 暴行脅迫ヲ爲シテ入りタルトキ
- 四 二人以上ニテ入りタルトキ
- 五 夜間入りタルトキ

第三百四十八條 故ナク皇居禁苑離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ前二條ノ刑ニ各一等ヲ加フ

第六章 財産ニ對スル罪

第一節 盜罪

第三百七十一條

第三百四十九條 自己ヲ利シ又ハ人ヲ害スルノ意ヲ以テ人ニ屬スル動産ヲ不正ニ奪取シタル者ハ盜罪ト爲シテ處罰ス

第三百五十條 自己ノ所有ニ屬スト雖モ物權ニ因リ他人ノ占有スル物件又ハ裁判所ノ差押ニ因リ他人ノ監守スル物件ヲ奪取シタル者ハ盜罪ヲ以テ論ス

共同所有權ヲ有スル者他ノ共同所有者ヲ害スルハ意ヲ以テ其物件ヲ奪取シタルトキ亦同シ

第三百五十一條 盜罪ヲ犯シタル者再ヒ盜罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ三犯以上ノ者亦同シ

第一款 竊盜ノ罪

第三百五十二條

暴行脅迫ヲ用ヒスシテ盜罪ヲ犯シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十三條

水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十四條

門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ家宅其他ノ建造物ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百五十五條

二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百五十六條

兇器ヲ携帯シテ人ノ家宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第三百五十七條

前數條ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百五十八條 家宅其他ノ建造物外ニ於テ竊盜ヲ犯シ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂クルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一月以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十九條

此款ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ付スルコトヲ得

第三百六十條

父母祖父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ竊盜ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ヲ免ス

第三百六十一條

若シ他人自己ノ利ヲ圖テ共ニ犯シタル者ハ宥恕ヲ與フルノ限ニ在

第二款 強盜ノ罪

第三百七十八條  
第三百七十九條  
第三百八十條

第三百六十一條 暴行脅迫ヲ用ヒテ盜罪ヲ犯シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三等有期徒刑ニ處ス  
竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス  
方略ヲ用ヒテ人ヲ睡眠若クハ昏絶セシメ其他精神ヲ喪失セシメテ盜罪ヲ犯シタル者亦同シ

第三百七十九條

第三百六十二條 強盜ヲ犯シタル者左ニ記載シタル情狀ノ一箇アルトキハ本刑ニ一等ヲ加ヘ二箇以上アルトキハ二等ヲ加フ  
一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ家宅ニ入り犯シタルトキ

第三百八十一條

二 二人以上共ニ犯シタルトキ  
三 兇器ヲ携帶シテ犯シタルトキ  
第三百六十三條 強盜暴行脅迫ニ因リ人ヲシテ第二百八十九條ニ記載シタル疾病創傷ニ至ラシメタルトキハ一等有期徒刑ニ處シ第二百九十條第一項ニ記載シタル疾病創傷ニ至ラシメタルトキハ二等有期徒刑ニ處ス

第三百八十二條

若シ殺意ナクシテ人ヲ死ニ致シタルトキハ無期徒刑ニ處シ殺意アリタルトキハ死刑ニ處ス  
第三百六十四條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス  
第三百六十五條 暴行脅迫ヲ用ヒ權利義務ニ關スル證書ヲ作リテ之ヲ交付セシメ又ハ證書ヲ滅盡セシメタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十四條

第三百六十六條 此款ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ一年以上五年以下ノ監視ニ付ス

第二節 遺失物、埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條

第三百六十七條 遺失又ハ漂流ノ物品ヲ拾得テ自己若クハ他人ノ利得ト爲ス爲メ之ヲ其所有者ニ還付セス又ハ官署、公署ニ申告セサル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮又ハ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條

第三百六十八條 他人ノ所有地内又ハ他人ノ所有ニ屬スル物件ノ中ニ埋藏シタル物品ヲ發見シテ其全部若クハ一分ヲ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條

第三百六十九條 此節ニ記載シタル罪親屬相犯ス者ハ第三百六十條ノ例ニ從フ

第三節 破産及ヒ家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條

第三百七十條 商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 詐欺破産ニ係ルトキハ三等有期懲役ニ處ス
- 二 過怠破産ニ係ルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百八十八條

第三百七十一條 家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者其宣告ノ前後ヲ問ハズ債權者ヲ害スルノ意ヲ以テ其財産ヲ藏匿、脱漏シ若クハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ一月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス  
情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第四節 詐欺取財及ヒ背信ノ罪

第三百九十十條

第三百七十二條 自己又ハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ虚偽ノ事ヲ構造  
第三編第六章 第三節 破産及ヒ家資分散ニ關スル罪 第四節 詐欺取財及ヒ背信ノ罪 一一五

第三百九十一條

第三百九十一條

シ又ハ眞實ノ事ヲ變更隠蔽シ其他詐欺ノ方略ヲ用ヒテ人ヲ錯誤ニ陷レ以テ不正ノ利益ヲ得タル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百七十三條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘

シテ不正ノ利益ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百七十四條 人ハ惡事醜行其他ハ陰私ヲ摘發漏告セハ脅迫シテ不正ノ利益ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百七十五條

前數條ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第三百七十六條 詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者再ヒ詐欺取財ノ罪ヲ犯

シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ三犯以上ハ者亦同シ

第三百七十七條

自己又ハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ質貸寄託使用貸借質其他容假ノ名義ニテ交付セラレタル金穀物件ヲ隱匿消費シタ

第三百九十六條

ル者ハ背信ノ罪ト爲シ一月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百七十八條 自己ノ所有ニ屬スル物件ト雖モ裁判所ヨリ差押ヘ更ニ保管ヲ託セラレタルモノヲ隱匿消費シタル者ハ背信ヲ以テ論ス

第三百七十九條 寄託又ハ代理ノ名義ヲ以テ他人ハ印願又ハ捺印若クハ署名アル白紙ヲ預リ不正ニ寄託者又ハ委任者ハ利益ヲ害シ得ヘキ證書ヲ作りタル者ハ背信ヲ以テ論ス

第四百一十條

第三百八十條 他人ノ所有ニ屬スル土地ノ全部若クハ一分ヲ占領スル爲メ又ハ其土地ノ利益ヲ得ル爲メ經界ヲ表シタル物件ヲ毀棄シ又ハ移轉シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編第六章第五節 贓物ニ關スル罪 第六節 動産、不動産ヲ毀壞スル罪 一一八

第三百九十七條  
第三百九十八條

第三百八十一條 此節ニ記載シタル罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス  
第三百八十二條 此節ニ記載シタル罪親屬相犯ス者ハ第三百六十條ノ例ニ從フ

第五節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條  
第四百條

第三百八十三條 前四節及ヒ第二百八條ニ記載シタル罪ニ關スル贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
犯人常業トシテ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百條

第三百八十四條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第六節 動産、不動産ヲ毀壞スル罪

第四百七十四條  
第四百七十五條  
第四百七十六條  
第四百七十七條  
第四百七十八條  
第四百七十九條  
第四百八十條  
第四百八十一條  
第四百八十二條  
第四百八十三條  
第四百八十四條  
第四百八十五條  
第四百八十六條  
第四百八十七條  
第四百八十八條  
第四百八十九條  
第四百九十條  
第四百九十一條  
第四百九十二條  
第四百九十三條  
第四百九十四條  
第四百九十五條  
第四百九十六條  
第四百九十七條  
第四百九十八條  
第四百九十九條  
第五百條

第三百八十五條 自己ヲ利シ又ハ人ヲ害スルノ意ヲ以テ人ノ所有ニ屬スル動産、不動産ヲ毀壞シ殘害シ消滅セシメ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第三百八十六條 自己ノ所有ニ屬スト雖モ裁判所ヨリ差押ヘラレ又ハ抵當若クハ質ト爲シ其他他人ノ爲メニ物權ヲ設定シ又ハ保險ニ付シタル動産、不動産ハ他人ノ所有ニ屬スル動産、不動産ト同ク論ス  
第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタルトキハ第二百四十二條ノ例ニ從フ

第四編 違警罪

第一章 秩序ニ關スル罪

第四編 違警罪 第一章 秩序ニ關スル罪



第二百三十三條

第三百八十八條 公然官職、公職、勳位、貴號ヲ詐稱シ又ハ官吏、公吏ノ服飾、徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十日以上、二十五日以下ノ拘留及ヒ五圓以上、二十五圓以下ノ科料ニ處ス  
其人ヲ錯誤、三、陷ルルノ意ナクシテ詐稱シ僭用シタル者ハ一圓以上、十圓以下ノ科料ニ處ス

第二百三十一條

第三百八十九條 官署、公署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍、身分、氏名、年齡、職業、住所ヲ詐稱シタル者ハ五日以上、二十日以下ノ拘留又ハ二圓以上、二十圓以下ノ科料ニ處ス

第二百二十五條

第三百九十條 身體壯健ニシテ定リタル住居ナク平常營生ノ產業ヲクシテ諸方ニ徘徊スル者ハ十日以上、二十五日以下ノ拘留ニ處ス  
第三百九十一條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ三日以上、十五日以下ノ拘留又ハ一圓以上、十圓以下ノ科料ニ處ス

第二百四十二條

一 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者  
二 官署、公署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋、牆壁ノ修理ヲ爲サス又ハ路上ニ倒シ若クハ落チントスル樹木其他ノ物件ヲ取除カサル者

三 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

四 自己ノ所有地又ハ其看守スル地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署、公署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者

五 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

六 檢視ヲ受ケスシテ變死人ヲ葬リタル者

七 埋葬證ヲ受ケスシテ死者ヲ葬リタル者又ハ埋葬證ヲ檢閲セスシテ葬ラシメタル者

八 流言、浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

九 妄リニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖リタル者

第三百九十二條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ五十錢以上五圓以下ノ科料ニ處ス

一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚キタル者

二 水火其他ノ變ニ際シ官吏公吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ之ヲ肯セサル者

三 人ノ通行ス可キ場所ニ在ル危險ノ井溝其他四所ニ蓋若クハ防圍ヲ爲ササル者

四 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

五 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

第四百二  
十七條 第三百九十三條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ一日以上五日

以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓以下ノ科料ニ處ス

一 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又ハ驚逸セシメタル者

二 瓦礫等ヲ道路家宅ニ投擲シタル者

三 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

四 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

五 制止ヲ肯セシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽入レ若クハ乘入レタル者

六 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者

七 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二  
第三百九十四條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ十錢以上三圓

- 以下ノ科料ニ處ス
- 一 私有地外へ濫リニ牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
  - 二 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者
  - 三 橋梁又ハ堤防ノ害トナル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
  - 四 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 五 車馬ヲ並ヘ牽キ又ハ並ヘ驅テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 六 水路ニ於テ舟筏ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 七 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
  - 八 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 九 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クゴトヲ忽セニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 十 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十一 通行禁止ノ榜示ヲ侵シテ通行シタル者
- 十二 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十三 公園ノ規則ヲ犯シタル者

第一章 衛生ニ關スル罪

第三百九十五條 公許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者ハ三日以上

十五日以下ノ拘留又ハ一回以上十圓以下ノ科料ニ處ス

第三百九十六條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ一日以上五日

以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 二 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 三 汚穢物ヲ道路家宅ニ投擲シタル者

第四百一十八條  
第四百一十九條

第三百九十七條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ十錢以上三圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署公署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
- 二 官署公署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者

第三章 風俗ニ關スル罪

第四百一十五條

第三百九十八條 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者ハ五日以上二十日以下ノ拘留又ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處ス  
本條ノ罪ヲ犯シタル者再ヒ犯シタルトキハ一等ヲ加フ三犯以上ノ者亦同シ

第四百一十八條

第三百九十九條 公ノ場所又ハ公衆ノ目ニ觸ル可キ場所ニ於テ猥褻ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ三日以上十五日以下ノ拘留又ハ一圓以上十

第四百一十九條

圓以下ノ科料ニ處ス

第四百條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ販賣シ又ハ販賣若クハ貸貸ニ供シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處シ其冊子圖書物品ハ之ヲ沒收ス

第四百一十三條  
第四百一十六條

第四百一十一條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ於テ神佛又ハ死者ニ對シ公然不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス  
若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ加フ

第四百一十八條

第四百二條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓以下ノ科料ニ處ス  
一 公然獸類ヲ虐待シ若クハ顯著ナル過度ノ勞働ヲ爲シメタル者

第四百二十九條

二 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者  
第四百三條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ十錢以上三圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業ト爲ス者
- 二 道路ニ於テ放歌、高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 三 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

第四章 身體、財産ニ關スル罪

第四百十五條

第四百四條 人ヲ毆打シ疾病、創傷ニ至ラサル者ハ五日以上二十五日以下ノ拘留又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

第四百十條

第四百五條 自己ノ所有地内又ハ其管守スル地内ニ遺棄セラレタル幼者、老者、病者アルコトヲ覺知シ故ナク之ヲ扶助セス又ハ官署、公署ニ申告セサル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處ス

以下ノ科料ニ處ス

第四百十七條

第四百六條 醫師、産婆故ナクシテ急病人又ハ分娩セントスル婦女ノ招キニ應セサル者ハ一日以上五日以下ノ拘留又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

第四百二十六條

第四百七條 公然人ヲ罵詈、嘲弄シタル者ハ三日以上十五日以下ノ拘留又ハ一圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

第四百二十九條

第四百八條 商賈、農工其營業ノ場所ニ於テ又ハ其營業ノ爲メ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所持シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處ス

第四百九條 價ヲ償フ能ハサルコトヲ知テ旅店、飲食店、其他飲食物ノ販賣者ヲシテ飲食物ヲ供給セシメタル者ハ五日以上二十五日以下ノ拘留ニ處ス

第四百二十八條

賃金ヲ償フ能ハサルコトヲ知テ營業ノ船車ニ乗リタル者亦同シ  
第四百十條 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リタル者ハ三日以上十五日以下ノ拘留又ハ二圓以上二十五圓以下ノ料ニ處ス

第四百十八條

第四百十一條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓以下ノ料料ニ處ス  
一 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其通行錢ヲ出サスシテ通行シタル者  
二 官署公署ノ許可ヲ得スシテ家畜ヲ官有地若クハ公有地ニ牧養シタル者  
三 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ動物ヲ解放シタル者  
四 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條

第四百十二條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ十錢以上三圓以下ノ料料ニ處ス  
一 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者  
二 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者  
三 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者  
四 通路ヲキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レ若クハ乘入レタル者

第四百二十六條

第四百十三條 第四百四條第四百七條第四百九條第四百十一條第四百十二條ニ記載シタル罪ハ被害者ハ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

附則

第四編 附則

第四百十四條 此法律ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

三三

明治二十六年七月廿九日印刷  
明治二十六年八月一日發行



著作者 山形縣士族 故宮 城 浩 藏

編輯者兼 東京市日本橋區通三丁目九番地 松 福 三 郎

印刷者 京橋區西紺屋町廿六七番地 島 連 太 郎

發行所 特別認可私立明治法律學校 講 法 會

發賣所 神田區表神保町壹番地(小川町通) 八 尾 新 助

全 神田區裏神保町七番地 明 法 堂

全 日本橋區通三丁目 丸 善 書 店

印刷所 京橋區西紺屋町二十六七番地 秀 英 舍



5/1/24

刑法正義下卷正誤

頁數	行數	誤		正			
		誤	正	誤	正		
七三	二二	包含ス	ス。衍	六七六	九	甲男	乙男
二二二	一一	「拒ム」ノ下	罪ヲ脱ス	六九三	五	「下」ノ下	有ヲ脱ス
三九五	欄外	「ハ」ノ下	「ノ」ノ下	七二〇	八	「公」權ノ間	訴ヲ脱ス
四二一	四	奇險	危險	八二六	二	「明」ノ下	シヲ脱ス
四二六	九	「モノト」ノ下	知ヲ脱ス	八九七	七	今	既
四七一	正文	二月以下	二月以上	九〇三	正文	「脱」ノ下	漏ヲ脱ス
四八七	二	「又ハ」ノ下	大行	九四八	正文	圍他	圍池
六六〇	一一	缺巧	缺功	九五九	正文	被裂	破裂

右誤植謹テ校正ノ疎漏ヲ謝ス

校正委員 高橋篤行



MISL-28

